

Active アクティブ！

～ あさがおを育てよう ～

Active ～あさがおを育てよう～

子どもたちが自ら進んで活動できるようにしたい！
子どもたちが生き生きと活動できるようにしたい！
子どもたちの新たな気付きをたくさん引き出したい！

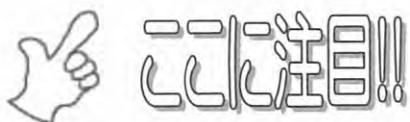


そのためには…？



大切なポイントがこの中に
たくさん詰まっている！！

Active アウティブ！



Active

子どもたちの主体的で、対話的な活動を生み出すための具体的な工夫を記しています。

気付き！

気付きの質を高めるための手立てや、子どもの活動を価値付ける具体的な教師の関わり方を記しています。

あるある NG!

指導の中で、子どもたちの意欲が持続しなかったり、活動が停滞してしまったりすることはないでしょうか。失敗しがちな教師の関わりを記しています。

はじめに

生活科を教える先生方、「Active（アクティブ）！」を読んでいただき、ありがとうございます。

右の子どもの言葉をお読みください。

どこが素敵な表現ですか？

そして、どんな言葉をかけますか？

子どもはアサガオの世話を一生懸命しているだけでなく、まるでアサガオが自分の友達や家族であるかのようにかかわっていることが伝わります。

生活科の学習を通して。子どもは心も豊かに変容していくのです。

感性豊かで、様々なことに前向きな子どものを育てるには生活科がおすすめです。

生活科は「もの・ひと・こと」という身近にある対象に子どもが関わる中で、自ら気付いたり、学んだりしていくことを大切にした教科です。関わりを通して、子どもには「自分の思い・願い」が生まれます。

教師はその実現に向けて、一人一人に適切に関わることが大切です。子どもの活動のよさや気付きを価値付けたり、教室全体に広めたりしていくことで、楽しく、意欲的に学び続けることができます。

この「アクティブ！」から「単元の進め方」「教師の関わりとして大切なこと」「大切にしたい気付きや学びのいろいろ」を感じていただけすると幸いです。



大きく育つてね。水をちゃんとあげるからね。
たくさん話しかけたから大きくなってきたのかな。
晴れた日はお花も元気いっぱい、
私も元気いっぱいになるよ。
いつまでもかわいい花が咲き続けるように
お世話をします。



「もの・人・こと」って何？

もの…虫、アサガオや野菜などの生き物（動物など飼育、栽培）、校舎、公園や図書館などの公共物、地域の店やその中にある道具、樹木や草花、雪などの自然物、遊びを通して見付けたものや制作したおもちゃなど。
「もの」との関わりから、驚きや不思議さ、疑問や工夫が生まれます。

ひと…学校の教職員、他の学年や学級の子ども、地域の人、ゲストティーチャーなど。

「ひと」と関わることで気付きが広がったり、深まったりします。

こと…地域行事、校内の交流活動、幼稚園や保育園との交流、〇〇ランドや〇〇まつりのような活動の場や活動そのもの。

「こと」を対象とした場合、「人」との関わりやつながりが生まれるようになると学びが深まります。



適切な教師の関わりは？

具体例はページをめくると載っています。子どもが「もの・人・こと」に関わり活動した時に生まれた思いや願いを大切にします。

- ①声を掛け思いや願いに寄り添う。実現に向けて励ます。一緒に〇〇する。
- ②思いや願い、活動のよさを認める。価値付ける。他の子に広げる。
- ③活動が停滞した時に適切に方向付ける。単に教えるよりも気付かせる。
- ④記録を積み重ねることで、自分の活動や関わりのよさに気付かせる。

*カードや付箋など。さまざまな方法は後述。

- ⑤評価する（伸びた力、学びの具体、足りない力、次の活動に向けて）。
- ⑥次の学びを予想する。次の学びと子どもの思考、気持ちをつなぐ。

お気付きの通り、一人一人の考え方や活動、学びは違います（傾向把握や分類は可能です）。ですから、教師も日常から確実に記録、評価ができるようにしましょう。

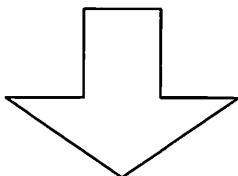
最初は1授業時間で数人しか関わりをもてないこともあります。そんな時は、子どもが書いたカードなどから、その子の気付きやよさを見取ります。

また、活動を振り返り、自分自身のよさに気付かせることも大切です。



生活科で育てる力とは？

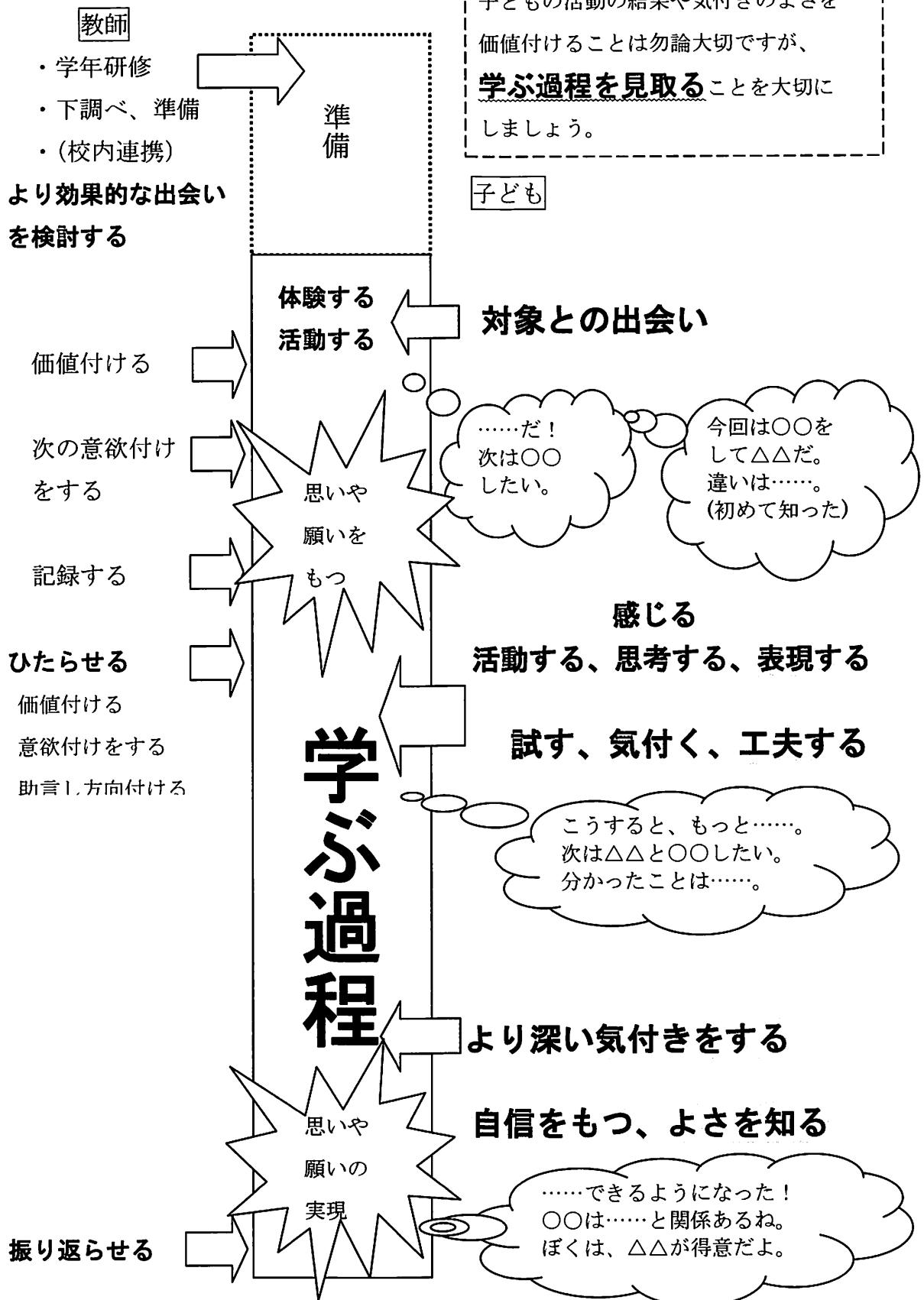
生活科で育てるのは、まず、「具体的な活動や体験から、対象と自分との関わりに興味・関心をもつ」力です。「興味・関心」をもち、教師の関わりや価値付けが行われたり、活動ににひたったりする中で、次に「自分自身や自分の生活について理解を深める」力を育てます。そして、学習活動の中で「生活上必要な習慣や技能を身に付ける」力をつけます。



このようなことができる子どもを育てましょう。

- | | |
|----------------|----------------|
| ・進んで行う | ・対象に直接働きかける |
| ・自分の思いや願いを表現する | ・試す、工夫する |
| ・活動にひたる | ・考える、予想する |
| ・感じる | ・気付く、分かる |
| ・比べたり関連付けたりする | ・自分のよさや成長を知る |
| ・自分の生活に生かす | ・よりよい生活を考える、創る |

＜＜学習の展開例＞＞





あさがおの栽培活動で大切にしたいこと P1

種を観察しよう P4



お世話をしよう P13



あさがおタイム

あさがおのお世話・観察

「虫めがねカード」で
観察の仕方を学ぶ

教えて、校長先生！
植え方や育て方を知る

栽培の大切なポイントを
子ども自らが考える「あさ
がお紙芝居」

子ども一人一人の困り
を全体に広げる

情緒的な気付きと知
的な気付きを引き出
す「あさがお郵便」

子どもの思いや願い
を把握し、必要に応
じて、観察カードの
種類を増やす

夏休みもお世話をしよう P27

花が咲いたら P29



あさがおで遊ぼう P31

種がとれたら P33



後片付けをしよう P35



一年間を振り返ろう P37

あさがおタイム

あさがおのお世話・観察

夏休み情緒的な気付きと知的な気付きを引き出す「あさがお郵便」

つるや花、種など、あさがおの部分の様子に着目できるよう関わる

それぞれの部分を見た面白さや不思議さを価値付ける

種を数えたり、新しい1年生にあげたようしたりする思いをふくらませる

あさがおさんとのお別れつるを無駄にせず、感謝の気持ちを表す

5月のカードと比較命のつながりの不思議さに目を向ける

**より質の高い気付き
あさがおに寄せる思いの高まり**